

商工会議所は、市など一定地区内の商工業の世論を代表し、商工業の振興に力を注いで、国民経済の健全な発展に寄与するための地域の総合経済団体です。各県には県内の商工会議所を会員とした商工会議所連合会があり、会員間の協調を図るとともにその意見を集約し、行政機関および県内経済団体などとも連携して、産業経済の改善・発展に寄与することを目的とした事業活動を行っています。

このシリーズでは、中部9県の商工会議所連合会を訪問し、各県の現況や課題、商工会議所連合会、および傘下の商工会議所の活動などについてのお話を伺います。

第5回となる今回は石川県商工会議所連合会です。

## 第5回 石川県商工会議所連合会

### 石川県商工会議所連合会概要

住 所：〒920-8639 金沢市尾山町9-13

代表者：会頭 深山 彬

URL：<http://www.ishikawa-cci.jp/>

創 立：1956年5月30日

県内商工会議所数：7

地区内商工業者数：45,586（2013年3月現在）

県内商工会議所会員数：16,371（2013年3月現在）



会 議 所 名	所 在 地	会 議 所 名	所 在 地
金沢商工会議所	金沢市尾山町9-13	加賀商工会議所	加賀市大聖寺菅生口17-3
小松商工会議所	小松市園町ニ1	珠洲商工会議所	珠洲市飯田町1-1-9
七尾商工会議所	七尾市三島町70-1	白山商工会議所	白山市西新町159-2
輪島商工会議所	輪島市河井町20-1-1		

## 石川県商工会議所連合会

専務理事 越島 正喜氏



### 石川県商工会議所連合会の役割

—石川県商工会議所連合会（以下、県連）の役割と、主な事業内容についてお聞かせください。

**越島** 県連の役割を一言でいえば、県内には7つの商工会議所がありますが、各会議所との連携と取りまとめだと思います。各商工会議所では、多岐にわたる事業に取り組んでいますが、各商工会議所の地域事業を把握し、それぞれの意見を集約したうえで、国や県に対して予算や制度改正などの提言・要望などを行っています。

県連の組織は法人ではなく任意の団体で、各商工会議所の活動を尊重しつつ、ゆるやかに結束している組織といえます。主な活動としては、県知事をお招きして会頭・副会頭会議を年1回開催し、意見交換を行っているほか、専務理事・事務局長会議を年に3、4回は実施しています。以前は金沢を会場としていましたが、最近では県下全域で巡回開催しており、単なる形だけの会議にならないよう親睦を深めながら、情報交換や役職員の資質向上に資するように努力しています。また、共済関係や経営改善に関する研修などは、各商工会議所が単独で行うのは難しい面がありますので、県連が中心となって、より充実した内容の研修になるよう工夫しています。

2015年度には「全国商工会議所女性会連合会石川全国大会」の開催が内定しております。今後は県連としてもその成功に向けて、女性会連合会の支援をしたいと思っています。

—各商工会議所をとりまとめるにあたって、苦労されている点があればお聞かせください。

**越島** 石川県は、金沢市と周辺地域、南西部の加賀地方、北部の能登地方と、大きく三地域に分けられます。産業構造や過疎の問題など、それぞれに状況がずいぶん異なっています。先ほど述べたように、そういう地域事情を鑑み、商工会議所個々の活動を尊重して、さまざまな取り組みを行っています。

—各商工会議所との情報共有や連携において、力を入れている点、工夫されている点があればお聞かせください。

**越島** 近年の情報化社会では、情報の共有は県連が仲介しなくとも個々の商工会議所で情報を収集できる時代になってきていますよね。そういった面は各商工会議所にお任せして、県連としては、各商工会議所が単独でできない研修や研究調査など、取りまとめ役としての役割を果たすことに重点を置いています。

—行政や他の経済団体とはどのような連携をとっているのでしょうか

**越島** 石川県には私ども県連をはじめ、石川県商工会連合会、一般社団法人石川県経営者協会（以下、石川県経営者協会）、石川県中小企業団体中央会、一般社団法人金沢経済同友会（以下、金沢経済同友会）の5つの経済団体があり、不定期ではありますが、石川県経済5団体代表者会議を開催しているほか、毎年、新年の仕事始めに金沢商工会議所、金沢経済同友会、石川県経営者協会の3団体主催で「新年互礼会」を行っており、他団体との連携体制は緊密といえるのではないのでしょうか。

### 石川県の産業

—石川県は、機械工業、繊維工業が盛んで、とりわけ「ニッチ産業」と呼ばれる業務用製品の製造業が多い特徴がありますね。県内産業の現況

と課題についてお聞かせください。

**越島** ニッチ産業は「すきま産業」ともいわれ、市場規模の小さい特定の業務向け製品などの製造業が含まれます。このうち、全国的シェアを有する中小企業を「ニッチトップ」といい、石川県には、現在64社があります。これは東京都、大阪府に次いで全国3位、人口比でみれば圧倒的な数になります。石川県はもともと繊維産業が盛んな地域で、それに伴い繊維機械工業が発展してきたことが、ニッチトップ企業を多く輩出する土壌になっています。また、藩政時代から工芸の保護や奨励がなされているとともに、実直な職人氣質が根付いている点も大きいとの指摘もあります。

こうした状況下で、石川県では、2005年から「ニッチトップ企業等育成事業」を実施し、現在までに31社を認定してきました。認定企業に対しては、3年間のオーダーメイド型集中支援、専門家の短期派遣、マスコミなどへの紹介で広告宣伝効果を上げるなど、重点支援を行っています。そのほか、高等教育機関が県内に集積していることを活かした産学連携による研究・技術開発、地元雇用の増大や人材確保を目指した新卒者への積極的なPRなど、将来の発展を見据えたさまざまな取り組みを行っています。

石川県では、工業全般について広く「ものづくり」と捉えられています。七尾商工会議所の産業ものづくり委員会では「産業観光」の可能性も検討しており、東大阪市などへの視察を行っています。

一陶磁器、漆器、友禅、仏壇、金箔など36業種もの伝統産業がありますが、現況と課題についてお聞かせください。

**越島** 県内伝統産業の関係団体などによって組織される「石川県伝統産業振興協議会」を金沢商工会議所内に置き、伝統産業振興に取り組んでいます。毎年2月に東京プリズムホールで開催している「いしかわ伝統工芸フェア」では、その36業種すべてを展示し、3日間で5万人以上の来場者を集めるなど、高い評価を得ています。ただ、伝統



いしかわ伝統工芸フェア2013パンフレット

工芸品は高級品が多く、ライフスタイルがこれだけ変化した現代においては、売り上げ面では難しいこともありますね。もちろん、伝統工芸品の育成は県連にとっても大事な役割だと認識しています。たとえば金沢では、工芸品にとどまらず、和菓子や料理なども多彩で、器や盛り付けも含めて「金沢の食文化」だと思っています。工芸品単独ではなく、そうした他の分野とも融合しながら情報発信していくことも大事ではないでしょうか。

一石川県は、国内有数の良質米の生産県として知られるだけでなく、加賀野菜、能登野菜、カニ、ブリ、甘エビ、能登牛など全国的に知名度の高い特産品が数多くあります。農商工連携や各地域の特色ある活動があればご紹介ください。

**越島** 2011年に「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されたことを契機に、農林水産業従事者と商工業者が連携・協力を図る機運が高まっています。商工会議所も、地域資源の宝庫として見直された里山・里海を利活用する新たな取り組みに対する支援を行っているところです。このほか、2007年度から国の施策として始まっている地域資源活用や農商工等連携、6次産業化への新商品・新サービスの開発、製造、販路開拓への支援も行っています。

一観光では、金沢、白山麓など、県内全域に観光地が点在し、有名な温泉もあります。現況と課題についてお聞かせください。



# ふるさと紀行「のと里山海道」



「のと里山海道」石川県ホームページより

**越島** まず、能登地方は、2011年に「能登の里山里海」が、国連食糧農業機関（FAO）による世界農業遺産に日本で初めて認定され、注目を集めています。無料化された旧能登有料道路に「のと里山海道」の愛称もつき、今後は、豊かな自然と文化を活かした観光や交流が活発化するでしょう。

特に七尾市の動きが活発です。オープン20年を経てもなお、年間80万人の来館者を迎えている「七尾フィッシャーメンズ・ワーフ 能登食祭市場」は、今年リニューアルオープンし、能越自動車道の全通を控え、能登の観光拠点施設としての機能をさらに高めています。七尾市で開催されている「モンテレージャズフェスティバルin能登」は今年で25回目を迎えますが、来場者は毎年4,000人を超え、地域経済にも大きな影響を与えています。また、市内中心部の一本杉通り商店街では、主に幕末から明治初期にかけての庶民の風習だった「花嫁のれん」を中心とした町おこし活動に積極的です。

その七尾市にある和倉温泉や県南部の加賀温泉郷などでは、外国人観光客が増加しています。温

泉地には「おもてなし文化」の土壌が存在しており、それが魅力のひとつになっているといえるでしょう。

また、金沢はかつて「小京都」と呼ばれていましたが、最近では京都とは異なる「武家文化が根付いた城下町」という認識が市民に広がっています。そうしたなかで金沢城の復元が進められており、文化の香り高い城下町らしい町づくりが進行中です。建て替え工事中の金沢商工会議所も、その一環として景観にマッチした建物になります。



「花嫁のれん展」



—2015年に北陸新幹線が金沢まで開通し、関東方面からの観光客が増加すると予想されますが、開業に向けた取り組みについてお聞かせください。

**越島** 開業効果を最大限に引き出し、県内全域に波及させるには、交流人口拡大の中核である観光の推進が必須です。広域的観光地の形成もそのひとつで、たとえば金沢市と白山市では「加賀藩と霊峰白山」をテーマに観光連携しています。地域ボランティアのスキルアップや観光案内標識の充実など、来県者に満足してもらうためのホスピタリティの醸成も重要でしょう。首都圏に対する戦略的な情報発信、MICEの誘致促進なども課題です。

石川県では2008年に、金沢商工会議所内に県内の運輸事業者、ボランティア団体、観光関連団体、有識者などで構成する「ようこそ金沢推進協議会」を設立し、運輸事業者の従業員や人事担当者向けに「もてなし向上」に関するセミナーを開催しています。

もちろん、金沢だけでなく能登地方、加賀地方を含めた往復とも新幹線利用ではなく、行き・帰りのどちらかで能登空港あるいは小松空港を利用してもらえるような商品開発をする必要もあります。これは、商工会議所だけでなく行政・民間団体全体の課題として捉えられています。

—各商工会議所における特徴的な取り組みがあればご紹介ください。

**越島** 珠洲商工会議所では、世界農業遺産に認定された「能登の里山海山」と芸術を融合させて新たな体験型観光を創造すべく、調査研究に着手しました。

石川県最大の漁業基地がある七尾市は、「すし王国能登七尾」と銘打ったキャンペーンを実施しています。それを受けて、七尾商工会議所では首



2012年度冬季能登ふるさと博パンフレット

都圏への情報発信を強化し、新幹線開業による交流人口の増加を七尾市にも波及させるため、「『すし王国能登七尾』と七尾の観光商品とのコラボモニター」を実施しています。モニターの方に、食とセットで和倉温泉、一本杉通り、長谷川等伯ゆかりの地など豊富な観光スポットを体感してもらうというもので、モニターの皆さんに好評でした。地元マスコミに取りあげられたり旅行代理店からの問い合わせがあるなど、商品化へ向けて好感触を得ることができました。

県連としても、魅力ある観光資源を地域一体となって磨きあげるだけでなく、それらを孤立させず、広域観光としてパッケージ化することが重要だと認識しています。具体的な動きとしては、能登半島4市5町（珠州市、七尾市、羽咋市、輪島市、穴水町、志賀町、中能登町、能登町、宝達志水町）で夏から秋にかけて開催されている「能登ふるさと博」や、加賀市、小松市、白山市と福井県北部地域が連携する「越前加賀広域観光推進協議会」などが挙げられます。

(注1) 多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称で、企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行 Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字をとった造語。

(注2) 1539年 (天文8年) - 1610年 (慶長5年) 安土桃山時代から江戸時代初期にかけての絵師。七尾で生まれ、青年期を過ごす。「松林図屏風」や「楓園壁貼付」(いずれも国宝) が代表作。

## 石川県のインフラ整備

—2015年春に北陸新幹線が金沢まで開通しますが、石川県として期待することや構想などありましたらお聞かせください。また、新幹線開業に伴い並行在来線が分社化されますが、沿線の活性化構想についてお聞かせください。

**越島** 1972年の基本計画決定から40年以上を経て実現する北陸新幹線の金沢開業は、石川県にとって長年の悲願でした。東京までの所要時間は約1時間20分も短縮され約2時間30分になりますし、年間の座席数も約1,800万席になると試算されており、首都圏からの誘客に大きな効果が期待されています。その一方で、宿泊客の減少や支店の閉鎖など、いわゆる「ストロー現象」と呼ばれるマイナス効果をできる限り回避することも課題といえるでしょう。

こうした新幹線対策に関しては、石川県をはじめとした地元行政と連携しながら、プラス効果を最大限享受できるよう地域一丸となることが重要だと考えています。一例としては、2009年に北陸新幹線金沢開業に向けたアクションプラン「STEP21」を石川県が策定し、①観光誘客拡大、②魅力ある交流基盤づくり、③産業・地域づくり

の3つの基本戦略に取り組んでいます。

株式会社日本政策投資銀行北陸支店が今年3月にまとめた「北陸新幹線金沢開業による石川県内への経済波及効果」によると、県内への経済波及効果は、増加入込客の直接消費による経済効果が年間約81億円、誘発される第1次、第2次の間接波及効果を含めると年間約124億円の経済波及効果と試算されています。プラス効果の享受は、金沢だけでなく広く県下全域に波及させることが肝要で、能登地域も加賀地域も、金沢と同様の情報発信および受け皿整備を推進しなければなりません。そのためにも、並行在来線をはじめとした二次交通や道路などのインフラ整備は欠かせない要素となります。

並行在来線のうち石川県区間20.6kmは、第三セクター鉄道「IRいしかわ鉄道」となります。区間は他県よりも短いものの、金沢以西の北陸本線や、津幡駅以北のJR七尾線との接続や乗り入れ、それに伴う初乗り運賃の負担などの課題もあり、運賃上昇と減便による利便性低下が大いに懸念されます。そのため、石川県がJR西日本に対して車両や設備などの低廉な譲渡と運賃上昇を抑えるための乗継割引の導入を働きかけた結果、鉄道資産の実質無償譲渡と開業後5年間の乗継割引が合意されました。また、厳しい経営状況を見越して30億円程度の運行支援基金の創設が予定されており、金沢以西の新幹線が開業する2026年頃までの11年間の乗継割引支援、運賃値上げ抑制、開業後投資・災害復旧などに充てることになっています。

「IRいしかわ鉄道」は、地域の重要な生活基盤であるとともに、北陸新幹線金沢開業効果を県内全域に波及させるための主要な交通インフラでもあるので、官民一体で利用を促進する必要があります。金沢から加賀・能登への誘導策として、九州で効果を上げている観光列車を整備することも一案でしょう。車両の整備だけでなく、沿線地域が一体となった誘客やおもてなしによる活用策も重要です。

また、昨年夏に北陸新幹線の金沢－敦賀間が着



提供：石川県・北陸新幹線建設促進石川県民会議

工されましたが、最終的に大阪まで全通すれば、東海道新幹線の代替機能の役割を担うことも期待されており、引き続き新幹線建設促進に力を注いでゆきます。

—今春「のと里山海道」が全線無料化され、能登方面へのアクセスが便利になりましたが、一方で、輪島道路、珠洲道路、能越自動車道など、未開通区間も多く残されています。今後の事業計画や開通後の見通しなどについてお聞かせください。

**越島** 石川県では、1996年に策定した「県土ダブルラダー構想」を継承・発展させ、2007年3月に『「ダブルラダー結いの道」整備構想』を策定しました。これは、南北幹線の複線化と東西幹線の多重化を進め、2本のはしご（ラダー）状の道路ネットワーク形成を目指すものです。その目的は、三大都市圏との交流拡大、南北に細長い県土の一体化、観光周遊性の向上、災害時の代替路の確保などです。経済界としても、道路網は経済活動や生活を支える重要基盤と考えており、能越自動車道をはじめとした幹線道路の整備を継続して要望しています。

その核のひとつが、今年3月31日に無料化された「のと里山海道」で、地域高規格道路化による利便性向上が期待されています。無料化後は、利用者が一般道からシフトし、交通量が増加しました。県が4月に二度行った調査でも、各ICの交通量は1.4～2倍に増加し、今後も観光や物流での波及効果が期待されています。

能越自動車道は、今年3月に「七尾水見道路」のうち七尾城山IC－七尾大泊IC間が供用を開始しました。七尾までの県内未整備区間は七尾IC－七尾城山IC間と七尾大泊IC－富山県境間で、2014年度中に七尾までの供用を目指しています。開通すれば東海北陸自動車道とも接続して能登半島へのアクセスがさらに良くなります。七尾から輪島までは、計画区間のうち能登空港IC－三井IC間

### 「ダブルラダー結いの道」整備構想



石川県ホームページより

が2006年度に事業化されて、測量・用地買収などが行われていますが、暫定供用を含めた完成時期は未定です。

このほかの主要道路では、能登空港と輪島市を結ぶ主要地方道七尾輪島線が既に全線の整備を完了しており、複数の国道と県道から成る「珠洲道路」も多くの区間で供用中です。

—能登空港は開港から10年が経過しました。これまでの経過と今後の利用促進の取り組みについてお聞かせください。また、新幹線開通で今後の活用方法が注目される小松空港についてもお聞かせください。

**越島** 能登空港は現在、国内線は羽田便が1日2往復運航され、年間平均約15万人の利用者があります。国際線は、台北から年間4便のインバウンドチャーター便があります。能登空港では、能登－羽田間の複数便の確保を目的とした「搭乗率保証制度」<sup>(注3)</sup>を導入していますが、東日本大震災のあった8年目（2011年）を除いて目標搭乗率を達成し

(注3) 地元が航空会社に対し、一定の搭乗率を保証するもの。目標搭乗率を下回った場合、地元が航空会社に保証金を支払うが、上回った場合は航空会社が地元へ販売促進協力金を支払う。



ています。地元の利用促進策として、近隣自治体において各種助成制度を創設しているほか、首都圏向けに各種旅行キャンペーンを実施したり、東京で「能登空港利活用講座」を開講することを予定しています。今後は、羽田便の運航ダイヤの改善、乗継割引制度の充実や国際インバウンドチャーター便の誘致に取り組んでいきます。ちなみに、今年の10月には、台北便5便の運行を予定しています。

小松空港は、羽田便12往復を中心に札幌、福岡、仙台、那覇、成田の各路線が就航し、国際線も地方空港としては多くの定期・チャーター・貨物便が運行されています。しかし、新幹線開業で羽田便が減る可能性があり、今後は、羽田乗り継ぎの需要拡大や新規国際路線の誘致によるチャーター便の就航促進に取り組まなければなりません。福井県を含めた広域連携による誘客促進や小松空港—加賀温泉駅間のバス路線実証実験など、二次交通対策にも力を入れていきます。

#### —環日本海交流の取り組み、整備状況についてお聞かせください。

**越島** まず、中国向けでは、大連市との交流が活発です。2008年、2010年に金沢商工会議所の深山会頭が訪問するなど数次の訪問団派遣を行う一方で、大連市からも訪問団がたびたび金沢市に来ており、経済交流も盛んです。また金沢商工会議所は、中国国際貿易促進委員会大連市分会と友好合作協議書を締結しています。2008年から大連市で開催されている「大連中日貿易投資展示商談会」に4年連続で参加しているのをはじめ、「金沢商談会 in 大連」という中国企業との個別商談会を2010年、2011年の2回開催しました。金沢市でも、2012年に「大連商談会 in 金沢」を開催し、今年7月には「大連—金沢ビジネス商談会」を開催しました。金沢市の姉妹都市である蘇州市との交流も活発であり、2012年には「金沢商談会 in 蘇州」が実施されました。

金沢出身の八田與<sup>(注4)</sup>一技師が戦前に灌漑事業に尽力した縁で、台湾の台南市とも盛んに交流しています。金沢商工会議所の深山会頭は、2012年に台南市で実施された「金沢ウィーク in 台南」に参加し、同年の金沢市の台南市訪問団にも加わっています。金沢商工会議所は、中華民国対外貿易発展協会（台湾貿易センター）、高雄市進出口商業同業公会、台北市進出口商業同業公会と合作協議書を締結して、台湾との交流も積極的に進めています。

韓国とは、2000年より毎年、北陸経済連合会が中心となり北陸三県の商工会議所連合会も参加する「北陸（日本）・韓国経済交流会議」が北陸と韓国の双方で開催されており、今年も14回目を迎え、韓国で開催される予定になっています。

#### —2007年の能登半島地震が甚大な被害をもたらし、県民の防災意識も高いと思われそうですが、防災面での活動などがあればご紹介ください。

**越島** 能登半島地震で得た経験と教訓から、東日本大震災では県全体がいち早く呼応し、現地へのボランティア派遣が活発にできました。もともと石川県は地震が少ない県と言われていますが、北陸新幹線も、太平洋側における有事の際、日本海側に動脈を確保するために必要という面もあり、陳情の際にもその点を強調しています。

### 今後の課題や抱負

#### —今後の課題、抱負や方向性などについてお聞かせください。

**越島** 商工会議所や地域ごとの自助努力も必要ですが、それよりも日本全体の経済が安定することが第一でしょう。北陸新幹線の開通はわれわれにとって絶好の機会です。開通の年に盛り上がるのは当たり前で、ポスト新幹線開通を見据えて新たな成長ビジョンを持たなければなりません。そうしたことも視野に入れつつ、行動する県連であり

(注4) 1886年—1942年。河北郡花園村（現金沢市）生まれ。水利技術者として台湾総督府に入り、灌漑事業を行った。

たいと思っています。そして、何より中小零細企業に信頼される県連であらねばなりません。新たなビジョンを掲げて大きい夢を追いつつも、中小企業経営相談など地道な努力も積み重ねていきたいと思っております。

ー石川県からみた中部圏とはどのような圏域なのでしょう。また、中部圏において石川県が果たしている役割についてどのようにお考えでしょうか。

越島 経済団体の活動としては、商工会議所の地

域ブロックでは、新潟・長野・富山・石川の4県、経済界では、富山・石川・福井3県で北陸経済連合会を構成しています。中部圏という観点では「昇龍道プロジェクト」のような、中部9県が一体となって主に中華圏からのインバウンドを推進する取り組みも進んでおりますし、国際定期便の発着する小松空港を活用して、北陸から岐阜や愛知、あるいは長野へと周遊する観光客もみられます。このような機会に連携を強化し、中部圏が一体となって発展するよう、努力していきたいですね。

### 数字で見る石川県の姿

県庁所在地：金沢市 人口463,565人 (2013年6月1日現在)

面積	4,186 (km <sup>2</sup> )	2011年	
市町村数	19 (市町村)	2013年4月	
総人口	1,157 (千人)	2011年度	
総世帯数	452 (千世帯)	2011年度	
人口密度	276 (人/km <sup>2</sup> )	2011年	
就業者数	582 (千人)	2010年	
外国人登録者数	10,783 (人)	2011年	
産業別就業 者数構成比	第1次産業	3.2 (%)	2010年
	第2次産業	27.3 (%)	2010年
	第3次産業	64.8 (%)	2010年
県内総生産	4,250 (10億円)	2009年度	
一人当たり県民所得	2,569 (千円/人)	2009年度	
事業所数	70 (千事業所)	2009年	
鉱工業生産指数	107.5 (05年=100)	2011年	
消費者物価指数	99.2 (10年=100)	2011年	
農業産出額	51 (10億円)	2010年	
製造品出荷額	2,374 (10億円)	2010年	
卸売業年間販売額	2,818 (10億円)	2007年	
小売業年間販売額	1,339 (10億円)	2007年	
情報サービス業売上高	60 (10億円)	2010年	
大学等進学率	54.8 (%)	2011年	
乗用車保有台数	39 (台/百人)	2010年度	